

船舶事故調査報告書

平成25年5月16日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成24年5月13日（日） 08時15分ごろ
発生場所	新潟県上越市直江津港内の関川河口 直江津港導流堤北灯台から真方位155°230m付近 （概位 北緯37°11.2′ 東経138°14.7′）
事故調査の経過	平成24年5月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーモーターボート <small>あいのかぜ</small> 愛乃風、5トン未満 220-19758新潟、個人所有 5.76m (Lr) × 1.96m × 1.01m、FRP ガソリン機関（船外機）、36.80kW、平成10年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 65歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成15年10月17日 免許証交付日 平成19年11月27日 （平成25年10月16日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、ハマチなどの釣りのために平成24年5月13日08時05分ごろ上越市所在のマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）を出航し、直江津港内にある関川を北進して河口付近に向かった。 本船は、北方からのうねりを受けて北進中、‘波高約3mの大きい波’（以下「大波」という。）が北方から押し寄せ、最初の大波を速力を上げて乗り越えたものの、続く2つ目の大波を乗り越えることができず、波が砕けるとともに、08時15分ごろ左に傾いて転覆した。 関川河口付近の波の状態を観察していた者は、本事故を目撃して海上保安庁に通報し、船長は、同庁のヘリコプターに吊り上げ救助され、病院に搬送されたが、死亡が確認され、死因は溺水と検案された。

	<p>また、本船は、関川河口付近で転覆した状態で発見され、巡視艇にえい航されて本件マリーナに戻った。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 東北東～南、風力 2、視程 約10km 海象：波向 北、波高 1.3m、潮汐 上げ潮の末期、海水温度 約14℃</p>
<p>その他の事項</p>	<p>関川河口付近の浅瀬では、沖からのうねりが関川の流れとぶつかって大きな波が発生することがあった。</p> <p>地元の漁業関係者は、関川河口左岸の船見公園で関川河口付近の波の立ち具合を見て大きな波が立つ時には出港を取りやめ、河口を通過する前には波の状況を観察し、大きな波がこないときを見計らって通過するようにしていたが、関川河口付近を通過する際、大きな波がきた場合には、速力を下げれば、船が波に対して横になって危険なので、速力を上げて大きな波を乗り越えていた。</p> <p>船長は、5月13日05時00分ごろ関川河口付近に波があることを確認し、帰宅した後、07時45分ごろ釣りのために家を出て昼ごろには帰宅する予定であった。</p> <p>2つ目の大波は、波頭が碎けて巻き波の状態であった。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、平成14年5月から本件マリーナの会員となり、本船を本件マリーナに保管していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、関川河口付近を北進中、北方からの大波を連続して受け、最初の大波を増速して乗り越えたものの、続く2つ目の大波を乗り越えることができなかったことから、転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、本船が転覆したことから、落水したものと考えられる。</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>船長は、落水したことから、溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、関川河口付近を北進中、北方からの大波を連続して受け、最初の大波を増速して乗り越えたものの、続く2つ目の大波を乗り越えることができなかったため、転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>本件マリーナは、本事故後、会員に対し、関川河口付近を通過する際には大きな波に気を付けるように注意喚起を行った。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船長は、河口付近の浅瀬では、沖からのうねりと川の流れがぶつ

	かって大きな波が発生することがあるので、波の状況を観察し、大きな波がこないことを確認の上、通過すること。
--	--